

## こんな学校をめざして

岩手大学教育学部附属小学校

### I 本校の役割

- 1 法律に基づいた義務教育の機関として、学習指導要領に基づいて小学校6か年の初等普通教育を実施します。
- 2 岩手大学教育学部の附属校として、次の役割を担います。
  - (1) 学部と連携して教育に関する研究を実践的に進める。
  - (2) 教員養成として学部学生の実習及び教職大学院の実習に当たる。
  - (3) 本県を中心とした地域における小学校教育の発展に寄与する。

### II 学校教育目標

「未来を切り拓く人間」の育成をねがい、次のとおり設定します。

- 1 健康で 元気な子ども
- 2 心が あたたかく 広い子ども
- ◎ 3 するどく感じ よく考え つくり出す子ども
- 4 ものごとに 進んで取り組み やりぬく子ども
- 5 力を合わせて よく働く子ども

(昭和58年4月12日制定)

### III 学校経営の基本方針

学校教育目標を具現化するために、児童の基本的人権を尊重しながら、次のような心構えで学校経営にあたります。

- 1 学校と児童・家庭・地域社会が強い信頼関係で結ばれるように努める。
- 2 児童のよさを多面的に捉え、一人一人の個性や資質・能力を伸ばすように努める。
- 3 教育条件や環境を整え、教育活動を効果的に進めるように努める。
- 4 教職員が自ら修養に励み、自分の能力を十分に発揮できるように努める。
- 5 大学・学部及び県や市の教育関係機関等との連携強化に努める。

### IV 平成30年度の重点目標

私たちは、「未来を切り拓く人間」の育成に向けて、学校教育目標の5つの子ども像のうち、「するどく感じ よく考え つくり出す子ども」を最重点目標に、「心が あたたかく 広い子ども」と「ものごとに進んで取り組み やりぬく子ども」を重点目標に設定し、積極的に教育活動を推進します。

特に、校内研究では、育成すべき資質・能力である「創発力」（主体性・協調性・創造性）の育成を教育課程全体に位置付け、授業を中心にしながら「汎用的スキル」（共感的思考・批判的思考・創造的思考）を発揮した「創発の学び」の充実を図ることで、教科等の深い学びを実現します。

学校教育目標の具現化にあたっては、上記の学校経営の基本方針に基づいて、次の事項を柱にして学校を運営していきます。

### 1 学校と児童・家庭・地域社会を強い信頼関係で結ぶために

- (1) 学校内（学校全体・学団・学年）でのつながりを大切にし、学級・学年経営の充実を図ること。
- (2) 家庭や地域に積極的に情報を発信し、学校の教育活動に対する理解と協力を得ること。
- (3) 学校、家庭、地域と連携した危機管理に努め、安全体制の充実を図ること。

### 2 児童のよさを多面的に捉え、一人一人の個性や資質・能力を伸ばすために

- (1) 児童一人一人のよさを認め、個性を生かす指導を行うこと。
- (2) 児童の思考や表現の場を保証し、集団の学びの中で資質や能力を伸ばす指導を行うこと。
- (3) 児童の学力を保障するため、個に応じた指導とわかる・できる授業の充実を図ること。

### 3 教育条件や環境を整え、教育活動を効果的に進めるために

- (1) いじめをはじめとする生徒指導に万全を尽くし、児童の生命と安全を守ること。
- (2) 校内の言語環境や環境整備に力を入れ、落ち着きと潤いのある環境づくりに努めること。
- (3) 教育活動に必要な施設・設備、教育機器、用具等の整備を行うこと。

### 4 教職員が自ら修養に励み、自分の能力を十分に発揮するために

- (1) 学級・学年経営を基盤とした生徒指導の充実を図ること。
- (2) 研究実践に主体的に取り組み、その成果を積極的に地域の学校に発信すること。
- (3) 校内外で研修を積み、教科等を中心にした指導力の向上に努めること。

### 5 大学・学部及び市や県の教育関係機関等との連携強化を図るために

- (1) 学部から依頼を受けた授業や講義等の充実に努めること。
- (2) 小中一貫や幼少連携など附属学校の共同研究の推進に努めること。
- (3) 県や市の教育委員会、教育事務所、総合教育センターなどの教育関係団体等との連携を密にし、協力体制の確立に努めること。

## V 目指す教師像

学校教育目標に掲げる子供像は、児童に対する目標であると同時に、「子ども」を「教師」と置き換えれば教師自身の目標にもなります。さらに、私たちは教育の専門職として、次のような教師を目指して努力します。

- 1 児童の願い・喜び・悩み・苦しみが分かり、児童一人一人の成長の可能性を信じ、児童と共に歩む教師となること。
- 2 常に児童の側に立って物事を考え、児童の発達特性を踏まえた最適で最善な指導ができる教師となること。
- 3 保護者と本音で話し合い、児童のよりよい成長を願うパートナーとして、心から信頼・協力し合える教師となること。
- 4 共通の目的を達成するために、仲間と本気で語り合い、鍛え合い、励まし合える教師となること。